

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1(1)	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強 (琵琶湖後期放流影響区間)		河川名	宇治川、瀬田川			
府県	京都府、滋賀県	市町村	宇治川、瀬田川沿川市町	地先	-		

現状の課題

現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針

堤防補強

高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。瀬田川、宇治川においては、たびたび発生する後期放流による長期の高水位による浸透破堤を考慮する区間。

位置図



具体的な整備内容

- ・堤防詳細調査実施延長
(調査の結果必要な箇所にて堤防補強を実施)

宇治川 約27km

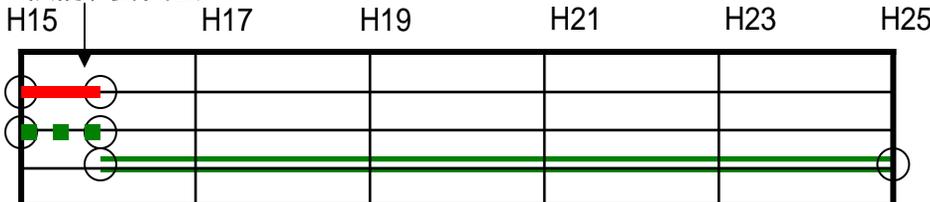
瀬田川 約3km

- ・事業の数量・諸元等

浸透対策 約30km

スケジュール

検討、委員会



- 検討
- 試行・委員会
- 実施

平面図

宇治川

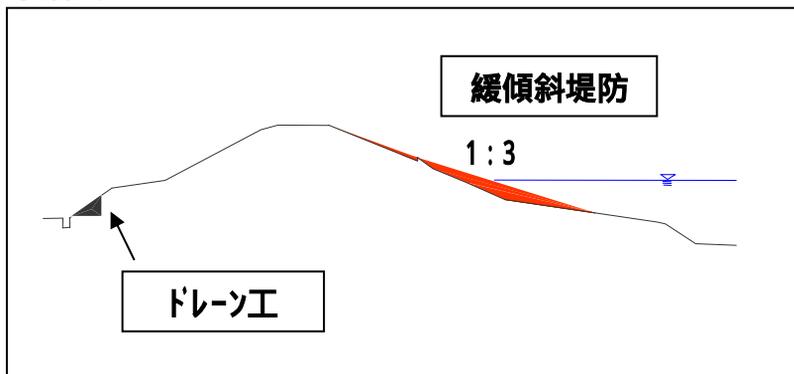


瀬田川

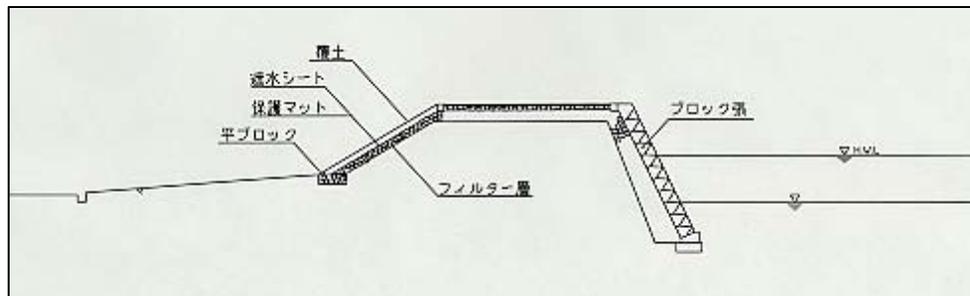


横断図 堤防補強対策の一例

宇治川



瀬田川



実施にあたり現地に則した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4設立)で早急に検討する。

整備効果

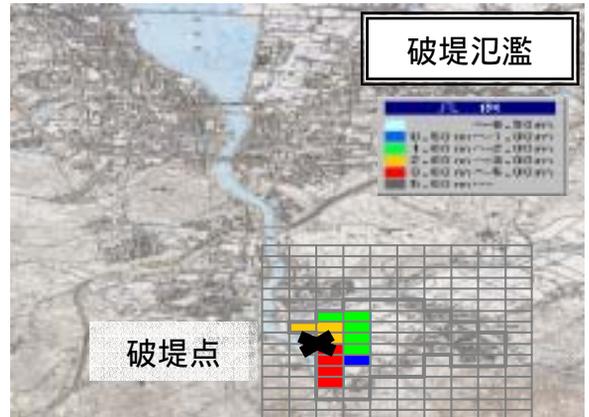
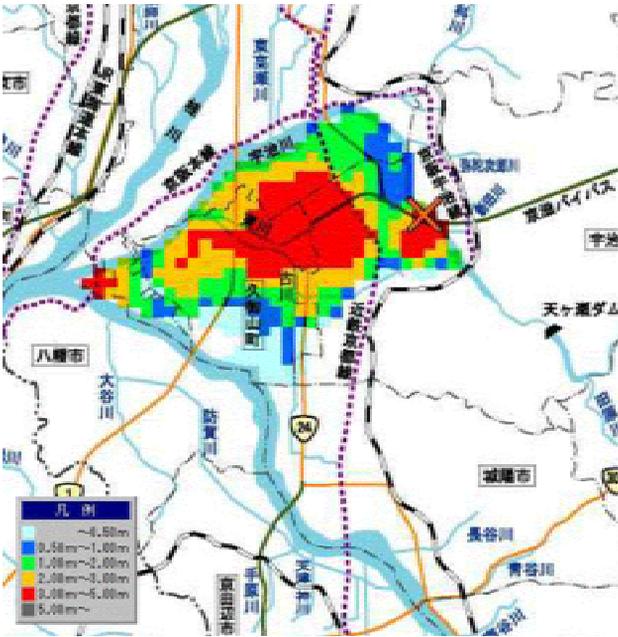
現状河道で昭和28年13号台風実績降雨の2倍で計算した場合の流量による、想定氾濫被害

(宇治川)

被害額	14,003	(億円)
浸水面積	2,805	(ha)
被災人口	72,665	(人)
浸水家屋	24,310	(戸)

(瀬田川)

被害額	75.66億円
浸水面積	80ha
被災人口	390人
浸水家屋	90戸



破堤による琵琶湖後期放流に及ぼす影響

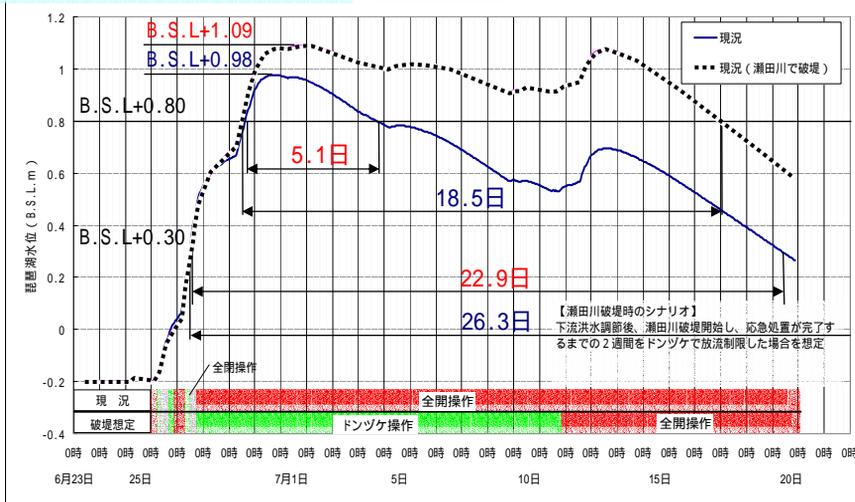
瀬田川において破堤した場合、洗堰の放流制限を余儀なくされ、琵琶湖沿岸の浸水被害の拡大が懸念される。

(条件) 堤内地盤高相当の流下能力が700m³/s程度であることからドン付けによる放流制限で溢水しない。堤防復旧に2週間かかる。

BSL+0.8mは、BSL+0.3mに住宅があった場合に床上浸水になる水位。

現状に対する水位ハイドロ

昭和36年6月洪水1.0倍



・破堤すると常時満水位 (BSL + 0.3m) 以上の継続時間は現況では22.9日 26.3日となり、**3.4日間延びる**。なお、BSL+0.8m以上の継続時間は現況に対して5.1日 18.5日、**深刻な被害の期間の増大が大きい**。
以上から、宇治川瀬田川の破堤に伴う洗堰の放流制限は琵琶湖沿岸の浸水被害を拡大することとなるため**早急な堤防補強が必要**。

現地写真

上空 (宇治川)



地上 (宇治川50.0k付近)



地上 (瀬田川洗堰下流)



2002.6全開放流による水位上昇

上空 (瀬田川)



— : 詳細調査範囲